

# 九州デザインシャレット 2022 in 熊本市

○池田隆太郎、柴田久、星野裕司、田中尚人  
高尾忠志、石橋知也、増山晃太、尾野真



様々な分野の学生・若手技術者を対象に、実際のまちづくりの課題に取り組む機会を提供。専門家指導の下、異分野との共同作業を体験させ  
現代の要請に適った人材を育成する。この体験を通じてその後も切磋琢磨しあえる仲間と出会い、その人のネットワークが九州  
全国に広がっていくこともこれから九州、日本の美しい風景を守り、新たな文化価値を生むための大きな力となるはすである



## 特徴 1 地域に密着した課題設定 【城下町くまもとのツボをデザインする】



## 特徴 2 短期集中 / グループワーク / 合宿形式プログラム

コンセプト～プランニング～デザイン～プレゼンの基礎を体系的に習得

## 特徴 3 実践的で多彩な講師陣



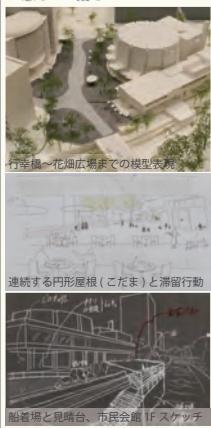
## 最終講評会 評価の視点

✓都市における広場のあり方 ✓提案の新規性・独創性 ✓デザインの地域性・魅力 ✓プレゼンテーションの質

### A 上がり框と式台



### B 憇う×結ぶ



### C 大広間の舞台袖



### D 串を刺す・串刺しを重ねる



### E 川とまちを繋ぐ線側



## 受講生の声 参加者 23 名から貴重なご意見・感想をいただきました！ 九州デザインシャレットでの学びとは？シャレットはどのような場なのか？？

夕田直子 (筑波大 M1)  
対象地と作業場を何度も往復し、意見の  
ぶつかり合いながら課題の方向性を探し  
必ず死ににアクトプットしてアクトプックに  
頭を悩ます。その他の意見の発言がとにかく  
楽しかったです。参加者の皆さんとの絆も  
強固なものだと思いました。

近藤沙紀 (筑波大国大 M2)  
本シャレットが私にとっての熊本初来訪で  
期待と不安でいっぱいでしたが、  
温かい懇親会を飛ばし合はう先生方、  
作業の様子を見に来て話を和ませたり  
団結力とうまく対応してくださるスタッフの  
方々に囲まれて4日間学ぶことができました。

アンケート結果  
シャレットへの参加  
非常に有意義だった 100%  
設定課題の難易度  
丁度 22% 難しかった 78%  
プログラム時間配分  
丁度 57% もっと長く 43%

安井由香 (筑波大国大 M1)  
分野の異なる班員同士で意見がまとまらない  
ことやアイデアが分散することもあり  
決断力や実行力の重要性を改めて  
実感したことは社会人としても得難い経験  
となりました。他社からも刺激をもらい、  
学びやすかったです。

吉田健一 (筑波大国大 M1)  
まちをどう読み解き、ヴィジョンや  
コンセプトをどう読み上げていくかを  
学ぶことができました。煮詰まった時  
や疑問にかかんだ時にすぐに講師の方に相談  
に来なくてはならず、多様な角度からアドバイ  
スをもらえたことが大きかったです。

吉田健一 (筑波大国大 M1)  
地球の裏側を見たような、専攻している  
建築分野と全く異なる視点や考え方方に  
触れられたこと、それが全プログラムを  
経て一番の強度です。これを機に  
狭い分野に固執せず、柔軟な考え方をもてる  
自分になれるところ頑張っていき所存です。

田中頌大 (国大 M1)  
分野の異なる班員同士で意見がまとまらない  
ことやアイデアが分散することもあり  
決断力や実行力の重要性を改めて  
実感したことは社会人としても得難い経験  
となりました。他社からも刺激をもらい、  
学びやすかったです。

南野千鶴 (国大工科大 M1)  
同世代の人達が自分の意見を的確に  
発言している姿や、自分達の班とは違った  
切り口から学ぶことができました。煮詰まった時  
や疑問にかかんだ時にすぐに講師の方に相談  
に来なくてはならず、多様な角度からアドバイ  
スをもらえたことが大きかったです。

桐原涼 (国大工科大 M1)  
大学の中でも、実務の中でも、  
この密度でデザインに向き合える機会はない  
と思っています。私自身がこの経験を  
最大限に活かしていくと共に、  
未来の後輩たちのためにシャレットが  
受け継がれて欲しいと強く願っております。

